

～子どもの育ちを応援する情報を発信～

のびのび通信

2024

8月号

いよいよ夏本番の8月！暑い日が続く中、熱中症も心配ですが、体調に気を付けながら、元気に楽しく夏を乗り切りたいですね。

さて、今回ののびのび通信では、発達に合わせたいろいろなボール遊びを紹介します。その中で『インリアル』についても触れたいと思います。大人も子どもと一緒にボール遊びを楽しみましょう。



詳しくは、
のびのび通信
2022年
11月号で紹介
しています。
裏面にも添付
しています！

インリアル 7つのかわり方～ことばがけのヒント～

1. 子どもの行動をまねてみる (ミラリング)
2. 子どもの発声、ことばをまねてみる (モニタリング)
3. 子どもの行動や気持ちをことばで言う (パラレルトーク)
4. 大人が自分の行動や気持ちを口にする (セルフトーク)
5. 間違えたことばを否定しないでさりげなく直す (リフレクション)
6. 子どものことばを広げて返す (エクスパンション)
7. 子どもに新しいことばのモデルを示す (モデリング)



発達支援の動画
「行動しくみ」

◆お知らせ◆

発達支援課のホームページに、のびのび通信のバックナンバーや発達支援に関する動画をアップしています。
発達支援課（市役所2階）の図書コーナーには、発達に関する書籍が多数あり、貸し出しをすることができます。詳しくはホームページをご覧ください。



発達支援課 HP

ボールの感触を楽しむ

まだ自分でボールを扱えない幼いお子さんも、触ったり、なめたりしながらボールを感じています。ふわふわ、トゲトゲなどいろんな感触があると面白いですね。子どもがボールをぽとんと落としたら同じようにしてみる（ミラリング）、機嫌のよい発声があれば、同じように言ってみる（モニタリング）など、子どもの行動にตอบสนองするように関わってみてください。



ボールぽとん

ボールを自分で扱えるようになったら、段ボールなどに穴をあけた物を用意してあげると、ボール入れが楽しめます。
子どもの動きに合わせて「ぽとん」とことばをかけることは**パラレルトーク**といえます。

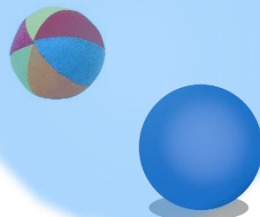


ボールのやりとり

自分・ボール・相手の3者が意識できるようになると（三項関係といえます）相手とボールのやりとりができるようになります。「次はお母さんが転がすよ。ころころ」とことばをかけることは**セルフトーク**にあたります。



ボールあそび



ボウリング

ペットボトルのボウリング遊びです。ボールを転がす→ペットボトルが倒れる、というように結果がわかりやすいので、目的をもって遊ぶことができます。

また、自分・ボールの2つの関係から、なかなか相手に関心が向きにくいお子さんも、倒れたペットボトルを大人に立ててもらうことで、相手に期待したりと、相手を意識する姿が見られるかもしれません。



紙コップと坂道で
こんな遊びも

記録にチャレンジ

のびのび通信6月号でお伝えしたように、幼児期には【自己肯定感】が大切です。“やってみよう”“できてうれしい”という経験を積み重ねていきたいですね。ボールを10回つく、ボールを真上に投げる間に3回手をたたく、など遊びの中でいろいろチャレンジしてみてください。『ちょっとがんばればクリアできる』目標を設定することが大切です。



新聞紙ボール

新聞紙をちぎったり丸めたりしてテープで貼り、自分でボールを作ってみましょう。手先を使う経験にもなります。少し難しいですが、新聞紙で作ったバットで新聞紙ボールを打つのもよいですね。
遊びの中で、子どもが「ボールできた」と言った時に、「大きなボールができたね」とことばを広げて返すことが**エクスパンション**です。



ルールのあるボール遊び

成長に応じて、遊びにルールを取り入れていくとより盛り上がります。的あてや、チームに分かれての風船バレーなどは家庭でも楽しめると思います。

ルールのある遊びを通して【順番を守る】【勝ち負け】などの経験をし、社会性を身につけていきます。「次、交代して」などと言うなど、よいことばのモデルを示すことを**モデリング**といえます。



～子どもの育ちを応援する情報を発信～

のびのび通信



のびのび通信で紹介した
『インリアル』について
書かれています。
こちらもお覧いただければと
思います！

言語聴覚士さんに質問！

子どもの言葉がなかなか出ません。どうかかわったらいいですか？

実は、〈ことば〉とは、話せる言葉（耳で聞こえる言葉）だけが〈ことば〉ではありません。次の3つの要素があります。

①話せることば（音声言）

例えば、「イヌ」のように、音声言語として口から出ることばのことです。発音は、口唇や舌を細かく動かすことを含めた体の使い方、体の発達に支えられています。

②わかることば（言語・概）

『イヌはワンワンとほえる』など、イヌについて知っていること。実際に見たり触ったりする経験を重ねて、「イヌ」がわかっていきます。

③コミュニケーション

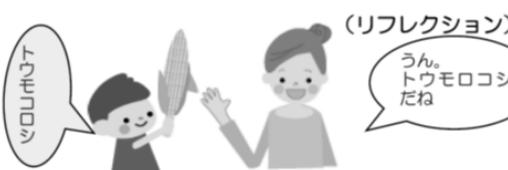
人に伝えたい気持ち、人に向かう気持ちのことです。例えば、「あ！イヌがいたー！」という発見や気持ちをわかってほしくて声を出します。

言葉の意味がわかり、発音する力があっても、③の伝えたい気持ちがなければ、〈ことば〉は音として、口から出てきません。

②と③がそろって初めて、①のことばが生まれるのです。①ばかりに目を向けず、②や③を育てることも大切です。

『ことばのキャッチボール』ということばを聞いたことがありますか。会話はキャッチボールと同じで、聞き手一話し手の相互作用です。子どもの発達レベルに合わせて、やりとりが続くようなかわり方が大切です。そのようなかわり方の一つに『インリアル』という考え方があります。

◇インリアルとは◇子どもの主体性を大切に、子どもが自分から遊びやコミュニケーションを始める力（主導権）を持つことを目標としています。大人がとるべき基本姿勢と7つのかわり方が示されています。

大人がとるべき基本姿勢 子どもの好きな遊びのなかで子どもを静かに見守り、子どもの興味や遊びを観察し、子どもの気持ちや発達レベルを理解し、子どもが言おうとしていることに心から耳を傾ける	①子どもの行動をまねる（ミラリング） 
②子どもの発声、ことばをまねる（モニタリング） 	③子どもの行動や気持ちをことばで言う（パラレルトーク） 
④大人が自分の行動や気持ちを口にする（セルフトーク） 	⑤間違えたことばを否定しないでさりげなく直す（リフレクション） 
⑥子どものことばを広げて返す（エクспанション） 	⑦子どもに新しいことばのモデルを示す（モデリング） 

私たち大人も子どもと一緒に遊びを楽しみ、子どもの気持ちに沿ったことばをかけていくことで、豊かなコミュニケーションが生まれていきます。子どもたちが「話すことが楽しい」と感じ、自分の気持ちを表現できることを目指して、サポートしていきましょう。

参考資料：『INREAL 豊かなコミュニケーションを目指して』竹田英一、「実践インリアル・アプローチ事例集」竹田英一監修 里見ら書 日本文化科学社